

# 文化たまの



## 令和 7 年度 玉野市文化協会表彰状贈呈式

開催日：令和 7 年 11 月 3 日

場 所：玉野市立図書館・中央公民館

玉野市文化協会では、毎年「文化の日」に、本市の芸術・文化の発展に著しく貢献した方に、表彰状を贈呈しています。

今年度は、書道部、俳句部、陶芸部、洋画部、茶道部、華道部、ペン字部から推薦された 7 名の方が受賞されました。

第 29 号

令和 7 年 12 月 1 日

編集・発行

**玉 野 市 文 化 協 会**

〒706-8510

玉野市宇野 1 丁目 27 番 1 号

玉野市教育委員会社会教育課内

TEL (0863) 32-5577

FAX (0863) 32-1329

## 会長就任の 御挨拶



江田 康夫

令和七年度文化協会総会で四年ぶりに会長に

選任されました江田 康夫です。

前任の藤田様におかれましては、ご任期大変ご苦勞様でした。お世話になりました。

文化協会各部二十団体は、毎年の指向に向けて精進・努力をされていることと思います。

一大事業の玉野市文化祭開催に当たりましては、多くの玉野市民参加のもと、開催を楽しみにしている鑑賞者・聴衆者と会場の雰囲気は、市民と文化が融和されているように感じています。また、毎年リピーターも増え、定着しているように思われます。

このような今日の現状に至るまでの文化協会の脈々たる業績は諸先輩・諸先生方のお力添えの賜物と心致しております。

今後とも会員の皆様方の心豊かな交流とお力添えのもと、文化協会がより一層発展いたしますようご尽力のほどよろしくお願い申し上げます。

## 舞台芸術

### 民踊

#### 岡山県日本民踊協会 創立四十周年発表会

植田 寿子

私たちせとうち民踊会が所属している岡山県日本民踊協会は創立四十周年を迎えました。

記念事業として就実大学音楽ホールを会場に所属団体二十三団体が日頃の練習の成果を発表して盛大に、発表会が開催されました。

私たちも一生懸命練習した民踊二曲を踊りましたが、他の団体も練習の成果がみられて楽しい一日

でした。

民踊協会が今後益々発展していくよう改めて願っております。



## 文芸

### 俳句

#### 俳句の魅力

牧野 米美

山頭火の一生について学んだのち「うしろすがたのしぐれてゆくか」と再読したとき、教室に静寂が広がった。作者の生き様と重ね、深く感動している中学生の姿があった。その後で学級単位の句会を行った。生徒たちは、有季定型の十七音の俳句は取り組みやすく創作の楽しさを味わい、句会では自分の句が認められる喜びを学んだ。退職前の四年間は、小学校に勤務した。俳句を通して、児童の心を耕し、自己肯定感を育てたいと考え、夏井 いつき先生に指導をお願いした。三回の来校で、「十二音の俳句の種」を作った後、その種に合う「五音の季語」を選ぶ「取り合わせ」による俳句作りを指導

していただき、全校句会も実施できた。

退職後は、「水の会」に入会。諸先輩から日々助言や刺激をいただき、歳時記を開くたびに季語の力を実感する毎日である。これからは、年齢に関係なく楽しめる俳句の魅力を玉野に広めていきたいと思っている。

## 川柳

### 仲間の作品鑑賞

前田 一石

出る釘が打たれて矛盾を  
ふと感じ

拓治

自らの所業ではないが、状況としてこんな理不尽はない。ただまあ少し調子に乗っていたことは確かではある。

やがてやがては私を潰しにくる

ひろえ

「未来」への想いは「願い」をも

内蔵して希望が優先するはずだが、この状況を思うと、明るい観測は得られそうにない。「やがてやがて」の未来観が寒さを連れてくる。

本心は言わずくるくる  
リンゴ剥く

きりこ

病院での見舞い看護の状況である。だから余計に「本心は言わず」への想いが、ただならぬ心配さえ伝えてくる。

スーパーにパンを買いに行き  
パン忘れ

正廣

ここまでくると「立派」？だ。帰って気付き、また出かける。パンは持ち帰ったが、安売りの「キャベツ」を買うつもりが、また忘れて帰ってしまった。「駄目だ、コリヤ」である。



## 短歌

鎌野 廣

短歌会は現在九名（女性八名・男性一名）で活動しています。月に二度、三首と二首を持ち寄り、互いに鑑賞し批評しあって楽しく学んでいます。

歌会で披露される歌には各人の個性が強く表れます。題材についても日常の生活・趣味・季節の動植物・天体にまで及んでいます。

短歌は省略の文学と言われています。三十一文字に限定される中で省略に力を注ぎ、かつ十分に思いが伝わるように表現するのは至難の業でもあり、また楽しみでもあります。

その昔西行法師が渋川で詠んだ歌に

下り立ちて浦田に拾ふ海人の子  
はつみより罪を習ふなりけり

があります。これを顕彰して西行賞が制定されました。

三十一文字に思いを込めて短歌

を作ってみませんか。そして西行賞に応募しませんか。新しい仲間をお待ちしています。

冴えわたる夜をがうがうと風  
荒れてかたむきゆかん冬の銀漢

井関 古都路

ループ橋より臨める海は風ざわ  
たり四国の山が近くに見ゆる

松下 政子

## 山野草

### 山野草

「玉野山野草の会」の  
一年間の活動

谷岡 清志

昭和五十九年、山野草に趣きを持つ有志で発足し、以来年二回（春・秋）育成した草花を持ち寄って、会員の親睦及び展示品を一般



の方々にも鑑賞して頂き、草花の  
愉しさを知っていただく活動を継  
続しております。

春の展示会に向けては、前年の  
秋の展示会終了後、春の展示の植  
替、株分け、種まき等の準備を寒  
風吹く一月末まで行います。この  
辛い植替作業を四月後半の展示会  
場での開花に向けて、水やり、遮  
光ネット張り替え等の調整を各自  
行います。

秋の展示会に向けては、春の展  
示会終了後、作場に遮光ネットを  
張ります。秋の特徴である紅葉、  
実、種、花等の展示品へ、旬の時  
期の開花をイメージしながら、夏  
場の気温を考えて、水持ち、水は  
けを考えた土配合の調整といった  
春と同様な作業を行い、本格的な  
夏場（七・八月）を乗り切ってお  
りました。しかし、今年の夏は異  
常気象が顕著に現れ、遮光ネット  
下でも熱風が通る状況にて、特に  
高山系植物は、会員の皆様も育成  
が難しい状況でした。

山野草会の課題として、ご存じ  
のとおり、今後、夏の異常気象が  
通年化となれば、鉢で育てる山野

草へは致命的なダメージ（遮光ネ  
ット化での葉焼け、水過不足に因  
る根腐れ、立ち枯れ）が多発し、こ  
の状況では、今後、秋の展示会の  
開催が困難ではと危惧している所  
です。



## 書画・創作

### 日本画

岡野 収

水墨画教室は五グループありそ  
れぞれ伝わっている描き方を中心  
に工夫し楽しみながら書いている。  
墨を付けた筆を画仙紙に降ろす。  
画く物は決まっているようで決ま  
っていない。墨の線が、勝手に形  
を追っている。何をどう描こうと  
全くの自由だ。線があっても無く  
ても墨の塊から絵になることも筆  
に任せよう。墨色の変化や勢い、そ  
して顔彩の面白さが交じり合いな  
がら絵になっていく。

「之（これ）を好む者は之（こ  
れ）を楽しむ者に不如（しかず）」  
とか描いている本人が楽しめば、納  
得すればそれで良いのではないだ  
ろうか。自分が描いている絵は誰  
がどう言おうと自分の絵でしか  
ないのだから。

そうして教室の中でみんな自分

の絵が一番と思いながら描いて互  
いに机を行ったり来たりしながら  
自分の考えを画友に伝える。伝え  
伝えられ変わる訳ではないが互い  
に楽しんでいる。

### 洋画

有藤 富男

三十年前洋画部の作品展に携わ  
った時、作品の大きさと作品の多  
さに驚きました。最近思うことは、  
数年前取り壊されたモダンな文化  
センターや、子どもたちが夏の美  
術講習で使えた多くの文化施設の  
復活です。近年の瀬戸内国際芸術  
祭の余波も感じる中で、観光客に  
玉野として見ていただける美術館  
もなく、地元出身の世界や日本中  
で活躍されているアーティストに  
提供できるステージもなく、玉野  
の景勝地をつなぐコースもなさそ  
うです。豊かな自然や玉野独自の  
文化を工夫し活性化するベースが、  
自由に使える文化施設です。

人はすてきなところがあるところ

には、そのためにだけでも動きま  
す。今はSNSの時代。様々な工  
夫をして知らせることが出来ます。  
市民が集えるすてきな施設で多面  
的な交流が新しい発想を産み、人  
集めの現代アートではなく、社会  
に眼を向ける交流が街全体の活性  
化の力になると考えています。不  
要品で作られたオブジェを受け入  
れた市民なら、やがてSDGsを  
楽しめる交流型アートにも発展す  
る力を持つかもしれません。



## 書道

近土 由美（清玉）

二〇二五大阪・関西万博で「白と黒の伝統」書道の魅力を世界に」と題した書道展が開催され、出品参加しました。

老子の言葉に【知白守黒（白を知りて黒を守る）】があります。白い紙に墨をつけた筆で表現する伝統的な書道においては、有名な詩や句、文章を揮毫すると作者と同等のような錯覚を覚えますが、その人のその時の感じ方こそが尊く、いろいろと思案して作品を仕上げていきます。運筆の際、筆の上下運動の高低や遅速、文字の拡大や縮小、呼吸の差などそれぞれ独自の技法で表現します。漢字・仮名・近代詩文書・前衛書など表現の違いはありますが、大切にしていることはみな共通しています。

それは臨書の心得です。「書は臨書に始まり、臨書に終わる」と言われています。古典となる所の作品を手本として、その形や筆遣いを読み取り、作者の精神までも模

倣して、筆の運び方や力の入れ方など、書に必要な技術を習得して自己の作品へと発展させていきます。

文化協会書道部員はこの課題に取り組み、日々精進してまいります。



## ペン字

### 玉野市文化祭 硬筆書道展を終えて

入矢 奈々

令和六年十一月二十八日から十二月一日まで、玉野市立中央公民館にて毎年恒例の玉野市文化祭硬筆書道展が開催されました。

千字文や現代文、俳句や古典作品の一節などが、ペンや筆ペンだけでなく竹片や木片、絵筆など、普段文字を書くのにあまり使用されない筆記用具を用いて書かれており、来場者の目を引いていました。数年前から学生部の作品も展示されるようになったためか、来場される方も老若男女様々で、時間をかけて作品を見て回ったり、会場の受付で作品や硬筆用具について、気になることを質問されたりしている様子が見られました。これをきっかけにもっと多くの人が硬筆書道に関心を持つてくださればいいなと思いました。

最後になりましたが、玉野市の

文化の更なるご発展を祈念いたします。



## 茶華道

### 茶道

#### 喫茶去

四宮 美智子

玉野市文化協会茶道部には、裏千家流を指導している四人の先生方が集う淡交会と、表千家流、有楽流、藪内流をそれぞれ指導して

いる四人の先生が集う茶道連盟との二グループがあり、隔月に月釜開催を担当しています。

席主は、その時々趣向を凝らしたこしらえでお客様をもてなし、お客様はそのまま心配りに感謝を込めて色々と席主との会話をします。互いに和やかな一時を楽しみます。

一席が三十分少々時間ではありますが、席主の苦心した趣向の空間に浸り「心静かにお菓子をお待たせいただき一服のお茶を飲み、ほっとする満足感をこの一時で味わっていただく」

そのような時間を少しでも多くの方々に経験していただきたいと願っています。

流派にこだわらず、初心者の方にも気軽に出席していただければ幸いです。

禅語に「喫茶去」という言葉があります。茶掛にはよく用いられます。

深い意味はさておき、  
“肩肘張らずに気軽に茶を一服どうぞ”

## 華道

### 花のある暮らし

徳田 睦子

文化協会華道部は年一回テーマを決め、メルカ二階玉野市立中央公民館のギャラリーで八流派（池坊・一生流・彩葉会・御室流・嵯峨御流・小原流・草月流・桑原専慶流）による華道展を開催しております。二日間で四百名近くのお客様に見ていただいております。

また、玉野市役所の一階ロビーには、ボランティアで十五年程前から華道部員が毎週季節のお花を生けさせていただいております。市民の皆様は「きれいなお花をいつもありがとうございます」とか「いつもご苦労様」などと言っていただき励みになっております。

これらを通じて、お花のある暮らしが皆様に少しでも素敵に感じてもらえたかもしれません。うれしく思います。

## 映像文化

### 写真

清水 孝之

文化協会写真部は現在十一人の会員で活動しています。

各自デジタルカメラ（一眼・ミラーレス）を使用し、通常は自宅のプリンターを使ってプリントして写真作品にしています。

月一度の勉強会を玉野市立中央公民館の研修室で行っています。作品を三つずつ提出して外部の講師へ送り評価を依頼し、講師の録音テープを聞きながらボードに貼り出した写真を一点ずつ皆で鑑賞





チェックすることとしています。

写真撮影は個人で出かけたり、外部の撮影会にも参加したりしています。題材は身近な花や鳥・動物・自然・行事・人物スナップなどですが興味を惹かれるものがあれば何でも良いわけです。

外部の各種コンテストに応募し賞をねらい公に評価してもらう機会も多々あります。写真を展示して見ってもらう場としては、会員だけの作品を五点ずつ展示する支部写真展を春に、広く一般の方の作品を一人二点展示する市民公募写真展を秋に玉野市立中央公民館のギャラリーで開催しています。

写真は生涯文化活動として身体を動かし頭も使うということで健康増進に最適と思われませんが、会員の高齢化も進み新規入会者がなかなかいないのが悩みです。ぜひご入会をお待ちしています。



## 音楽

### 玉野太鼓

廣畑 武史

備前玉野太鼓は、現在、小学生から大人まで年齢層は幅広く、十五名で活動しています。

練習は、毎週火曜日十九時から二十一時まで、玉野スポーツセンターの卓球場で行っています。福祉施設や、各地区のお祭りやイベントなど依頼を受け、演奏しています。

また、今年もUNOホテル前で開催された盆踊りで、玉野いきいき音頭・花咲く玉野の音に合わせてリズム打ちもさせていただきました。演奏会場によっては、和太鼓体験の時間を設けて、お客様に実際に和太鼓に触れてもらい、和太鼓を打つ楽しさや音の響きを感じてもらっています。また、岡山県内で活動している他の和太鼓団体とも交流を深めながら、お互い

に切磋琢磨しています。

玉野市という地域に根付いた和太鼓チーム、そして四十年以上続く歴史あるチームとして、伝統を守りながら今後も幅広く活動していきます。



## 合唱

小泉 則子

「合唱」をインターネットで検索してみると、

「合唱とは、複数人の人が異なる声部に分かれて、複数人で歌う声楽の演奏形態を指す。コーラスやクワイアとも呼ばれ、美

しいハーモニーを作り出すことで参加者同士の間に強い結びつきが生まれるのが特徴。」

とAIによる概要が出てきます。

一緒に歌うことで、他者と一体化した様に感じられるのはなぜでしょうか。その理由を科学的に解明するのは脳科学や心理学などの領域になると思いますが、リズムを合わせる共同作業、みんなで揃えることで「一緒に行動している」という実感が生まれていくのだと思います。

「二体化する」「心がひとつになる」「自分たちが体感した、その場に生まれる「歌のチカラ」「楽しさ」が、聞いて下さっている皆様方にお届けできる様に、日々努力を重ね、これからも頑張っていきたいと思っています。

### ギター・マンドリン

中田 美千代

今年の会場はすこやかセンターやまももホールに変わりましたが、

無事第五十四回定期演奏会を終えることが出来ました。半世紀以上も続くクラブの活動は、本当に周りの皆さんの温かい励ましと協力によるものと、深く感謝しています。

現在は月に二回のクラブの練習と、月一回プロの先生の指導を受けています。正直会員も高齢化してきて、ちぐはぐなことも起こりますが、それもたまには良し。

しかしいざ練習となると、自然と背筋が伸びます。いとしい愛器を抱え、懐かしいメロディーなどを合奏すると、皆の顔にほほえみが浮かびます。

これからの目標は「継続は力なり」個人の都合だけでは動けなくなるかもしれないが、ずっとこれから皆で音楽を楽しんでいきたいと思



## お知らせ 報告

### 陶芸

#### 第八十六回玉野陶芸同好会作品展

日程／令和六年十一月二十日(水)

～二十四日(日)

場所／玉野市立中央公民館

ギャラリー

#### 第八十七回玉野陶芸同好会作品展

日程／令和七年五月二十一日(水)

～二十五日(日)

場所／玉野市立中央公民館

ギャラリー

右記日程にて作品展を開催し、多くの方にご来場いただきました。



第八十七回の様子

### 管弦楽

#### 玉野フィルハーモニー管弦楽団

##### 第二十七回定期演奏会

日時／令和七年二月二日(日)

場所／すこやかセンター

やまももホール

指揮／榎野 清治

曲目／シューベルト／イタリア風

序曲第二番

シューベルト／交響曲第三番

ベートーヴェン／交響曲第

七番

台風の接近により、開催を九月から二月に延期しましたが、約百名の聴衆の方に来場頂き、演奏を楽しんでいただきました。

次回、第二十八回定期演奏会は、創立三十周年記念公演として、令和八年二月八日(日) 早島町民総合会館ゆるびの舎 文化ホールにて、岡山フィルハーモニック管弦楽団の長坂 拓己氏をソリストに迎え、ベートーヴェン／ヴァイオリン協奏曲二短調、交響曲第五番「運命」、シューベルト／交響曲第八番「未完成」のプログラムで

開催します。



### 吹奏楽

#### 玉野ウインドオーケストラ

##### 創団四十周年記念 第三十八回定期演奏会

日程／令和七年六月二十二日(日)

場所／灘崎文化センター

創団四十周年という

ことで、ゲ

ストに玉野

高校出身で

あり、国内

外でご活躍

されている

指揮者の守

山 俊吾先





生と、チエロ奏者の佐藤 響氏をお招きしました。約六百人の来場者の前で、日頃の感謝の気持ちを込めて演奏しました。

## 第六十六回

### 全日本吹奏楽コンクール

#### 【岡山県大会】

日程／令和七年八月十日（日）

場所／倉敷市民会館

#### 【中国大会】

日程／令和七年八月二十四日（日）

場所／周南市文化会館

岡山県大会ではゴールド金賞を受賞、二年連続の岡山県代表に推薦いただきました。山口県で開催された中国大会では、銀賞を受賞しました。たくさんの方の応援をありがとうございました。



## 俳句

玉野市俳句連盟主催の令和七年玉野市俳句大会を次のとおり実施しました。

日時／令和七年十月五日（日）

十三時～十六時

会場／玉野市立中央公民館

第一・第二研修室

当日参加者数／十九名

### ○募集句

令和七年八月二十六日（金）締切、応募者三十六名、応募総数百八句、連盟役員理事の事前選句と集計を令和七年九月二十六日（金）に実施、次のとおり表彰しました。

#### 市長賞

千枚田一枚のごと蛙の夜

十河 朴風

#### 教育長賞

退路なき掟あるごと蟻の列

大野 豊之

## 連盟賞

ふるさとの川は人生新走り

日村 喬

### 入選賞（九句）

人に皆見えぬ檻あり秋茜

近藤 祐司

一葉のそよぎが運ぶ涼新た

光枝 民子

萍の飄然として雲流る

三好 一彦

炎昼を戻りて家の畳かな

朝川 きし子

逞しき母の二の腕あつぱつぱ

立花 正廣

短冊をはみ出す夢や星祭り

西上 みどり

晩学の俳句の深さ天高し

牧野 米美

嘘つくも君の目にある秋の空

小坂 卓史

歩けるといふ幸せや稲穂垂る

三宅 健

### ○当日句

参加者二十三名、当日投句で各人三句（当期雑詠）総数六十九句、選句は参加者が七句互選、集計の

結果、次のとおり表彰しました。

## 議長賞

うとうとは老いの曲芸ちろ鳴く

三宅 健

## 文化協会会長賞

嫺やかな白寿の背や秋高し

立花 正廣

## 連盟賞

干拓の歴史を重ね稲の花

牧野 米美

### 入選賞（九句）

飛び入りの達者はおばあ盆踊

合田 治子

鶏頭に夕日は色を残しけり

滝 公華

天高しただ居るだけでいいふたり

金石 きみ子

失なひて手操る記憶やそぞろ寒

大野 豊之

天高し行けるうちにを合言葉

建部 芳子

一休の話まあるく盆の月

三好 一彦

遺言も戒名も書き生身塊

西上 みどり

見納めの剣の舞や桐一葉

那須 澄雄

富有柿の四等分の甘さかな

長谷井 照子

## 邦楽

第六十七回玉野市邦楽連盟邦楽演奏会が令和七年十一月二十三日（日）に開催されました。園児学生から高齢者までが出演し、古典から現代曲まで十一曲を演奏しました。



## ジャズバンド

昼下がりのダンスパーティー

日時／令和八年三月二十九日（日）

十四時～十六時

（十三時半開場）

場所／すこやかセンター

やまももホール

チケット／五百円（当日販売）

社交ダンスパーティーを行います。

演奏は、「ジャイブ、ルンバ、マンボ、チャチャチャ」など、色々なスタイルで演奏します。

ダンス愛好者以外でも演奏をご鑑賞される方に席をご用意しています。多数のご来場をお待ちしています。



## 茶道

月釜のご案内（日程）

○令和八年

一月十八日 初茶会 裏千家

二月八日 裏千家 中村宗郁

三月一日 有楽流 島崎宗千

六月二十一日

裏千家知新会・青年部

七月五日 七夕茶会 連盟会

九月二十七日

月見茶会 裏千家

十一月三日

文化祭茶会 裏千家

○令和九年

一月十七日 初茶会 裏千家

二月十四日 表千家 竹内宗範

## 文化協会表彰

令和七年度の文化協会表彰状贈呈式を、十一月三日（月・祝）に玉野市立中央公民館で開催し、来賓に市長・市議会議長・教育長・市議会副議長・教育次長をお迎えし執り行いました。

この贈呈式は今年で四十九回目

を迎え、本年度は次の七名の方々に、文化協会の発展に多大な功績があつたとして、表彰状と記念品を贈呈しました。

加納 禎三（梅窓）書道

三好 一彦 俳句

山口 宏 陶芸

有藤 富男 洋画

小林 秀子（宗秀）茶道

吉田 美佐紀 華道

辻本 裕美（芳泉）ペン字

（敬称略）

## 文化協会被表彰者



書道部

加納 禎三

（梅窓）

このたびは玉野市文化協会より表彰していただきましてありがとうございます。

幼少より今日まで筆とのお縁を継続できたことに感謝いたしております。

幼少期は、片岡 竹窓先生、後、石賀 桂樹先生にご指導を仰ぎ諸

活動を続けてまいりました。

その間、日展入選という思わぬお恵みをいただきました。青潮書道会、県書道連盟を平成九年に退会し、現在岡山日展会、(公社)養和書道院に所属、昭和五十年頃より書道塾を始め現在玉野市での教室のほか、岡山市でも活動をさせていたいております。各教室での雰囲気もさまざまで、子どもたちから教えられることも多々あり、大人の教室の中でも色々と考えさせられることも。そうした中、書道を通して筆を持ち紙に向かっている時の集中力、書くことが大変少なくなってきた現在、書くことで字を覚え、新しい発見等を通して教室に来られている皆様と楽しく一時を過ごせたらと願っています。心豊かな世界を目指して頑張りたいと思います。



俳句部

三好 一彦

このたびは、玉野市文化協会より表彰を賜り誠にありがとうございます

います。

知らせを聞いて驚くとともに、十河 朴風先生を始め、多くの句友に感謝の気持ちで一杯です。俳句へのきっかけは、「広報たまの」の市民講座案内でした。退職後の余暇活用には、と思い参加を決めました。爾来十五年、この間に俳句連盟の「あすなる句会」にも参加し、両方で楽しんでいきます。メンバーの一部は入れ替わりましたが、どの人も温かく優しく、折々に句友と飲む句会後のコーヒーが、格別に美味しい。

玉野市俳句大会では、市長賞や連盟賞、入選賞をいただき感謝です。このことは、句作活動の大きな励みになっています。「多作多捨」「具象」「物に託す」などの言葉や胸に刻みながら、朴風先生とお会いした時に披露された「私の句歴三十年」を忘れません。私も十五年の折り返し地点に来ており、あと十五年は、俳句に関わりたいと思う、この頃です。



陶芸部

山口 宏

この度は、玉野市文化協会より表彰していただき、誠にありがとうございます。

陶芸を始める以前は、旅行先で気に入った焼き物を手に入れていました。退職を機に、陶芸教室へ通い、手びねりや、電動ロクロで備前焼を習って、自分の作品をお酒や料理に使用する楽しみができ、週二回の手びねり教室を今も続けています。

思いの形を作るのはなかなか苦勞しますが、途中で諦めて壊すことなく、形を完成させていると、次第に手際の良い造りに近づきます。登り窯で備前焼の窯焚きを経験し、電気窯で火樺(ひだすき)を色よく焼ける楽しみを知り、「次はあれを作ってみよう」「こんな色で塗ってみよう」等、思いを巡らせて楽しんでいきます。

現在、ミネルバ陶芸教室の補助や玉野市立中央公民館の陶芸教室の講師をしています。粘土で形を

作る時のキラキラした物づくりの気持ち、形に表せる楽しみを伝えていきます。



洋画部

有藤 富男

玉野市文化協会から表彰をいただき誠にありがとうございます。

絵を描くことを通して江田会長や立花先生に出会い、文化協会の使命のようなものを教えられました。こうして絵が描けるのも平和であればこそ。平和の素晴らしさを絵を描くことで伝えていく団体が文化協会洋画部かなと思うこの頃です。

昨今は平和を守るための防衛を強化するなどとの論調もあります。が、現実の戦争を行っている国々の有様を見れば、戦争は、双方の国民や文化遺産を失い、いつ終わるとも知れない地獄の様相を明確に写し出し、何のための防衛であったか全く解らないことが理解できます。

若い世代は楽しい社会と自由な



生き方を禁止され、一兵士として戦います。私たちはそれを伝え、文化の大切さ、生きる事の意義を各自の作品を通して表現することで平和の素晴らしさと、戦争の無意味さを伝え続ける責務をそれぞれが文化協会が担ってきていたことを再認識し、私もその一員としてより良い作品として表現していきたいと思います。



### 茶道部

小林 秀子  
(宗秀)

このたびは、玉野市文化協会より表彰していただき感謝申し上げます。

平成元年に玉野市から早島町へ転居してより、自宅と玉野市の稽古場で裏千家茶道を教授しています。近藤 宗貞先生に師事して、玉野マリン青年部の部長在任中は月見茶会や師走茶会など親支部の先生方からのご支援をいただいていた茶々と青年部なりの趣向を凝らした茶席を開催してお客様に楽しんでいただきました。青年部卒業後

は、裏千家淡交会の幹事として月釜や諸行事に協力させていただいています。

これまで長く続けてこれましたのはお茶を通じて多くの人との繋がりがあったからです。今後も後進の為に尽力させていただきます。



### 華道部

吉田 美佐紀

このたび、玉野市文化協会より表彰をいただき、大変光栄に存じます。日頃より温かいご指導をくださっている先生方、そして共に活動する会員の皆様に、心より感謝申し上げます。

お花を習い始めてから三十七年の歳月が過ぎました。最初の頃は、先生に教わったとおりに生けることで精一杯でしたが、年月を重ねるうちに、自分の思いや考えを表現できるようになりました。

玉野は海や山に恵まれ、四季折々の花々に囲まれた美しい土地です。

この自然の中で季節の移ろいを

感じながら花を生けることができ、幸せを感じております。

これからも、「素敵だった」「面白いわ」「楽しみです」といった皆様からの温かいお言葉をいただけるよう、心を込めて取り組んでまいりたいと思います。



### ペン字部

辻本 裕美  
(芳泉)

このたびは、玉野市文化協会より表彰していただき、身に余る光栄で誠にありがとうございます。

四十歳のころ、ふとした機会にとっても惹かれる書風に出会いました。その時、中学生までペン習字教室に通っていたことを思い出して「また始めてみたい、きつと生涯に役立つ自分の強みになる」と感じました。

高畑 和耕先生・翠岑先生に入門させていただける好機に恵まれ、私の書の道は導かれるように再出発を迎えました。

毎月「ペンの光」誌へ出品。温かく的確にご指導いただける先生



### 文化たまの編集委員

江田 康夫	山口 正
藤原 多恵子	青井 泰則
関 真実	綱川 則枝
日村 喬	細川 健二

のもと、上を目指す目標をもって、時間があれば練習しました。書の奥深さを教わり、身につく楽しさを感じるようになり挫折も経験しましたが、今まで続けてくることができました。

よき師、よき仲間にも恵まれ、これからも自己研鑽を怠ることなく、感謝の気持ちをもって、精進して参りたいと思います。